



カンボジアの子どもたちに教科書を

ニュースレター 68号

これまでの活動の成果の振り返り第六回

代表理事 江本哲也

日韓アジア基金も皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、発足以来、今年で17年となりました。

ここで、この間の活動の成果を振り返り今後の会の発展の糧としたいと思います。今後ともご支援よろしく申し上げます。

～目	次～
活動の振り返り	1, 2 頁
カンボジア便り	2, 3, 4 頁
日中韓文化交流会	4, 5 頁
新ビビンの会	5, 6 頁
ボランティアさんの感想	7 頁
新理事紹介	7, 8 頁
事務連絡	8 頁

2013年3月 幼稚園の子ども達をトゥクトゥクで送り迎えを始めました

ルセイサン幼稚園から要望があったトゥクトゥク（TT）を使っての子ども達の送り迎えについて、支援を行うことを決定しました。当会では、以前行った通園バスの効果が思ったほどではなかった為、費用対効果の面で慎重に検討していました。最終的に、



- ① 通学路を大型トラックが頻繁に通る為、TT無しでは子ども達の安全が大きく懸念されること
- ② 例年を上回る40人超の子ども達が2013年度は通園していること、を配慮して支援を決定しました。使用するTTには子どもが落ちないようにネットでカバーするなど、安全面の工夫をしてもらいました。

通学路を通る大型トラックの運転手にも通学時間の運行を控えるように働きかけを行いました。費用は月額130ドルで、当面3月から1年間支援を行い、その効果などを見きわめてから継続するかどうかを一年後に再度検討することにしました。

トゥクトゥクの支援でルセイサン幼稚園も大盛況

これまで色々な形で支援をしてきたものの、通園する子どもの数が中々増えなかったルセイサン幼稚園ですが、2013年度は子どもの送り迎えをするトゥクトゥクと幼稚



園の先生の給与を支援してきた結果、年度末に向けて幼稚園で学ぶ子どもたちの数は継続的に伸び、最終的に45人となりました。このうち、20 人の子どもは2014年からルセイサン小学校の1 年生クラスに進級しました。

当会では現地スタッフのリティさんを通じて、幼稚園に子どもを送る親へのインタビューを行いました。先生については、「送り迎えの時もいつも子どもと一緒にいてくれ、非常に責任感があり、子どもを幼稚園に通わせる際の不安が無くなった」という声が聞かれました。

一般的にカンボジアでの幼稚園の先生は、給与水準が低く手間もかかるためあまり人気の無い職業と見られています。しかし、この先生は子ども達が少しでも楽しく学べるよう、小さなパーティを催したり、家庭訪問をして親に子どもを通園させるよう促すなど、とても精力的に教育に取り組んでくれました。トゥクトゥクに関しても、登下校の際の安全性が飛躍的に高まり、不慮の事故などを心配する必要が無くなったということで、日韓アジア基金の支援に対する多くの感謝の声が聞かれました。これまでの経過を観察した結果、教育熱心で責任感の強い先生の存在と、登下校の安全を確保してくれるトゥクトゥクの相乗効果で、通園する子どもの数が飛躍的に伸びたものと考えられます。これらを踏まえて、予算の制約などもありますが、次年度に向けてのルセイサン幼稚園への支援も行っていくことに決定しました。



小さなパーティー



先生の家庭訪問

カンボジア便り

～現地職員リティさんの近況～

丸山芳彦

今回は、当会の現地での活動を1人で支えてくださっている リティさんの近況をお知らせします。リティさんの生い立ちと、日韓アジア基金の活動への思いは、2017年のニューズレターでお伝えして2年が経ちました。リティさんは今も産業省（Ministry of industry）で食品安全管理システムを担当し、ISO22000やISO9000品質管理システムの認証にも携わっています。



リティさん一家は、プノンペンから13Km離れた町、タクマオに住んでいます。今の奥様との間には2人の娘さんがいます。Zanaちゃんは5歳になりました。幼稚園に通っています。前回の記事で紹介したときはまだ生まれたばかりだったSaritaちゃんは、2歳半になりました。奥様は今も時々妹さんのメイクアップショップで働いています。

リティさんには、離婚したロシア人の前妻（リティさんがロシア留学時代に知り合いました）との間にOlesiaさんという美しい娘さんがいて、2017年に結婚されました。息子さん（Vonsak君）も産まれて、リティさんはおじいさんになりました。Olesiaさんは、今大学4年生で観光学を勉強中、今年卒業予定です。彼女の夫は、政府の省庁に勤めています。引退した義父も国会で働く官僚だったそうです。Olesiaさんの嫁ぎ先一族とリティさん一家は、カンボジアでは高学歴のエリート一族と言えるでしょう。



リティさんは日韓アジア基金の活動以外にもカンボジアの教育環境改善に尽力されていますので、我々は安心してカンボジアでの我々の活動をお任せしています。

リティさんは日韓アジア基金の活動以外にもカンボジアの教育環境改善に尽力されていますので、我々は安心してカンボジアでの我々の活動をお任せしています。

日韓アジア基金以外のリティさんの活動



以前に紹介した『Drinking Friends' Fund』（貧しくて中学校に進むことが難しい優秀な子供への支援、主にリティさんの酒飲み友達からの寄付で成り立っています。）は、今2人の少年を支援しています。

左の少年は、以前よりリティさんが支援しているPiseth君です。今年の8月に高校を受験します。リティさんは、彼が高校を卒業するまで支援を続けたいと思っていますが、これは他のメンバーとの相談になるようです。

小さい方の少年は、昨年から支援していて、今7年生です。

日韓アジア基金の行っている教科書支援に関しては、昨年カンボジア政府が教科書の配布を充実するようになりましたので、近い将来、我々の教科書支援の役目も、不要になりそうです。今後、当会として、カンボジアでどのような活動に変えていくかを今リティさんと考えている最中です。『Drinking Friends' Fund』への積極介入も候補の1つと思っています。

最後にリティさんが今興味をもっているNGOを紹介します。このNGOは、以前に日韓アジア基金が設立に協力した幼稚園（江本代表理事の記事を参照ください）の2つ部屋を借りて、英語とコンピューターを無料で教えることからスタートしました。今は教室を小学校に移しています。



日中韓文化交流

伊藤 晋

自修館中等教育学校の伊藤と申します。以前もこのNLでご紹介を頂いておりませんが、生徒たちが「インターアクトクラブ」という国際奉仕活動の団体を作り上げ、運営しております（7月8日に正式に同好会として認定して頂きました）。日韓アジア基金とは、不定期ではありますが色々と教えて頂きながらコラボレーション企画を行わせて頂いています。わずかながらでもお力添えができますよう生徒ともども頑張つてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

今回は日韓アジア基金とのコラボレーション活動の中から、平成30年4月13日（土）に行われた「日中韓アジア文化交流会」についてご報告をさせていただきます。

昨今、メディア等でよく耳にするようになった「グローバル化」は、「イコール英語」ではありません。日本が位置するアジア地域は目覚ましい発展を遂げた国もあれば、まだまだ開発途上である国も多くあります。政治上の問題ばかりが取りざたされ、隣国である中国や韓国に対する誤解が先行していますが、今こそアジアを牽引していくリーダーとして日本と中国、韓国が市民レベルで理解を深め合い、協働していくべきではないでしょうか。そこで、今回自修館中等教育学校の土曜セミナーの中で「アジア文化交流」を企画させて頂き、また日韓アジア基金のご協力で中国と韓国の方をお呼びして、お互いの理解を深め合う場を提供させて頂きました（神奈川韓国総合教育院の方々にもご協力頂き、韓国の民族衣装であるチマチョゴリの試着体験もさせて頂いています）。

交流会は中国の方 3 名と、韓国の方 3 名を囲んでの懇親会となりました。まずは各国の文化について日本との違いなどを教えて頂きました。その後は日本での生活において、出身国や世界情勢の影響でとても辛い思いをした体験談などを伺うこともできました。日本と異なる視点から私たちの国や生活、文化を見つめなおすことで生徒たちは多くの課題を見つけることができ、アジア、ひいては世界に対する意識を変えることができました。

たくさんのご協力のもと、とても良い会を作り上げることができました。誠にありがとうございました。機会があれば、また第 2 回、3 回と続けていきたいと考えています。



新ビビンの会 波多野氏講演

～もっと知ろう日本・韓国のこと～

長内麻誉

今回、当会にて継続的に開催して参りましたビビンの会(国際交流の会)に代わり新・ビビンの会を開催いたしました。当会理事の波多野淑子氏をスピーカーに迎え、韓国についてもっと知るための講演会といたしました。日韓の名の下に普段活動をしておりますが、活動のなかで、韓国の文化を知る機会はあるけれども、歴史について知り、語る機会はないよね、と言った声から今回の会を開催することとなりました。

波多野さんが長いこと韓国の事を勉強し、韓国の言葉や文化・歴史に精通していらっしゃることは存じ上げていましたが、その知識を教えていただく機会や、波多野さんと韓国との関わりについて伺う機会はなかなかありませんでした。私は学校の授業では、韓国に関わる歴史について詳しく習った記憶がありません。恥ずかしながら、個人的に勉強したこともありませんでした。ただ、すでに人生の 3 分の 1 は韓国と関わりを持って過ごして来ましたので、知識が浅いことを常に恥ずかしいと思っていました。そんな私にとって今回の講演会はとても有意義なものになり、新しいきっかけとなりました。

会の構成は、2 部に分かれ、1 部は波多野さんの講義、2 部はディスカッションです。波多野さんの講義では、近現代の韓国の歴史と、韓国と日本との外交史を教えてくださいました。1994 年生まれの私にとっては、ほとんどが生まれる前の出来事でしたが、

その当時の事を覚えていると言う方もいらして不思議な感覚でした。

講義の中では、波多野さんが本格的に韓国語を習い始めたのは、定年退職後(!)、その前は教師をしていらして、韓国の歴史については現役時代にご自身で学ばれていらしたとのことでした。波多野さんの幼少期は、今と違い、海外や外国の方に対する認識も違ったそうです。目に見えるものだけでなく、裏にある事情を知った時に、物の見え方が変わったと聞き、これは今の時代を生きる人たちにも言えることだと思いました。

私は波多野さんが定年退職後から韓国語を習い始めたことに一番驚きました。私がおかしく出来ないと言うことがどれだけ恥ずかしい事か、改めて思い知らされました。私ももっともっと挑戦するべきだと思いました。

会の1番の目玉は、ディスカッションでした。テーマは特に決めず波多野さんからの講義をベースにお互いの感想や疑問をぶつけていく時間でした。日本人の参加者の他に、韓国の方が2名いました。日本人の参加者は、こんなことを知らなかった、あんなことを知らなかった、韓国の人から見るとこれはどういった気持ちなのか、と言ったような声がたくさん聞こえました。韓国の方からは、歴史教育の違いについての意見が出ました。もちろんどの国も自国の歴史をたくさん学ぶ事が当たり前なので、韓国の歴史について私たちが韓国人より知らない事を当たり前かもしれません。でも、日本と韓国にどんなことがあったのか、知ることはお互いがもっと距離を縮める上で必要不可欠なのだと深く感じました。また、私たちはその歴史上の出来事を先人たちがしたことだ、と割り切るのではなく、もし同じことが自分の家族に起きていたらどうか、と考えてみると人ごととは思えなくなることを知らされました。

現代の韓流ブームや日本ブームを超え、本当の意味で私たちが仲良くなるには、やはり文化のみを知るだけでは足りず、私たちの国の間に起きた出来事を理解し、相手の気持ちになって考えることがお互いに必要です。私はもっと韓国の方達と仲良くなりたいですし、わかり合いたいと思っています。日本のことも、韓国のことももっと深く知り、本当の友情を育んでいくことが、当会の真の目的でもあります。今後もこのような会を持続していけたら良いなと思いました。



◆ 書籍紹介：『モレ村のこどもたち』（新幹社）ファン・ソギョン著 波多野淑子 訳

・朝鮮戦争直後の子供達の貴重な体験と彼らの成長。物語を通じて韓国文化や韓国の人々の考え方も知ることができる秀作です。

ボランティアさんの感想

～ニュースレター発送作業に参加して～

会社員

今回ボランティア情報ネットからこちらのボランティアを見つけ、私は韓国の文化が好きでよく旅行に行っていたし、国を超えて協力し合い他者を助けるというコンセプトに感心してこちらのボランティアに参加しました。

最初に、スタッフの方からこちらの団体がどのような活動をしているのか説明をして下さり、私達がお手伝いするお仕事がどのようなもので何に繋がるのか具体的に教えて下さって分かりやすかったです。スタッフの方は「ちょっと地味な作業で～」とおっしゃっていましたが、活動に関わる大事な作業だと思いますよ！国籍や年齢を超えて、皆さん熱心にアットホームに取り組まれているんだな、というのが伝わりました。また、皆さん親切で気さくな雰囲気なので初めての参加でも臆せず質問したり、声を掛けたりすることが出来ましたし、和やかな雰囲気で作業をすることが出来ました。国籍、年齢、経験の違う、色々な方と出会えて、色々なお話を聞いて自分にとっても良い刺激となりました。



ひとつ残念だったのが、作業が詰め詰めだったのか皆さんでお昼ご飯に行けなかったことですかね…。今回は本当に作業のみって感じだったので、皆さんともっとお話を交わしたかったな～と思いました。でも、それを除いては楽しいボランティア活動でした。また次回も、ご縁があれば是非参加したいなと思っております。スタッフの皆様、参加されたボランティアの方々、お疲れ様でした！

ひとつ残念だったのが、作業が詰め詰めだったのか皆さんでお昼ご飯に行けなかったことですかね…。今回は本当に作業のみって感じだったので、皆さんともっとお話を交わしたかったな～と思いました。でも、それを除いては楽しいボランティア活動でした。また次回も、ご縁があれば是非参加したいなと思っております。スタッフの皆様、参加されたボランティアの方々、お疲れ様でした！

新理事紹介

水谷充徳

最初はちょっとボランティアをやってみたいという気持ちでインターネットで探し、日韓アジア基金のイベントに参加しました。そのとき、周りの皆さんが、初めてのボラン



ティアさんに心温かく接してもらったことが、日韓アジア基金に参加したきっかけです。それから何回かイベントに参加し、いつ日かスタッフとなり、スタッフとしてお手伝いを行い、今に至りました。

今後、理事ということで何が出来るか？考えたときにどうやって行くのか？新しく参加する人をいかに増やし、参加しやすくするか？いかに次、来てもらえるか？ボランティアを募集した団体、グループが、普段何をしているのか？を明らかにしてわかりやすく伝えることが出来ればと思

います。また、ボランティアに参加される方と一体感が出来ればと思います。
最後に暖かく迎えてくれたみなさまに感謝しながら展開していきたいと考えております。
宜しく申し上げます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

事務連絡

斉藤乃章

◆当会イベントにボランティアスタッフとして参加くださった方（敬称略・順不同）

・2019年4月20日 ニュースレター67号発送作業

森真太郎・西田真智子・有馬綾菜・上出洋生・瀬尾優美香・原野高美・水谷充徳・ジョンヨハン

千葉まゆみ・長内麻誉・丸山芳彦・斉藤乃章

◆2019年3月25日～6月17日に会費・ご寄付を下された方（敬称略・順不同）

佐久間徳幸	内尾亜津子	北川節子	竹野内教男	塚本美和子	柳明姫
乾寿夫	柴田義之	福島悟	松井ふみ子	望月義人	田中慶子
小林栄次郎	松本忠雄	松本美里	松田明美	江本哲也	松尾美保子
トミヤマアキ	唐澤一登	自修館中等教育学校			

◆今後のイベント開催、参加予定（詳細は下記までお問合せください）

・9月28日（土）、29日（日）グローバルフェスタ ブース出店（於 お台場センタープロムナード）

・10月 ニュースレター69号発行作業（於 アジア文化会館）

・10月 アジア文化会館秋祭り ブース出店

◆ご入金・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

賛助会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

法人会員：年会費 100,000 円

ご寄付：2,000 円以上 おいくらでも

郵便振替口座

支店名 ○一九(セロイチキュウ)店

口座番号 当座 00180-2-25153

口座名義 日韓アジア基金

（カタカナ表記 ニツカンアジアキン）

活動会員：活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

賛助会員：定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問合せ先＞（日本語でお願いします）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13

アジア文化会館（A B K）内

Tel：090-5812-1471（庶務・会計担当 斉藤）

FAX：03-3946-7599（A B K）

E-メール：nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp

HP：<http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也